新コンセプトに基づくグループの総力を挙げた取り組みをご覧いただいたセキュリティゾーン

「iEXPO2006」では、セキュリティに対する関心が今まで以上に高く、情報システム部門の方のみならず、総務部門の方なども含め大勢の方にブースをご覧いただきました。展示ブースでは、NECの提唱する新たなセキュリティアーキテクチャコンセプト「協調型セキュリティ」を具現化した製品を実際にご覧いただくことで、ユビキタス時代におけるセキュリティのあり方をご理解いただけたものと考えています。また、全体のアウトラインを知っていただくための「セキュリティゾーン見学ツアー」を実施し、大変好評を博しました。さらに詳細を知りたい方は、個別の製品、システム、サービスなどの各ブースにおいて、説明員に説明を求め、理解を深めていただきました。

NECは、今後も「協調型セキュリティ」製品の強化、拡充を図るとともに、個別対策の連携ソリューションの提案、パートナー企業とのアライアンスを進め、お客様の「安心」をサポートします。

経営レベルで全社的な取り組みとしてとらえる企業が増加

2006年12月6・7・8日に開催された「iEXPO2006」では、NECが力を注ぐ3つのマネジメントのうちの1つ「リスクマネジメント」のテーマブースにて、NECグループが総力を挙げて取り組むセキュリティ対策をご覧いただきました。

フィジカルセキュリティ対策をはじめ、PC・サーバに組み込む情報漏えい対策やサーバーアタック対策、不正接続防止などのネットワークを介して行うセキュリティ対策、さらにはセキュリティ診断やセキュリティクリニックなど、製品・システム・サービスごとに展示を行い、順にブースをご覧いただくことによって、その全貌を理解いただきました。

特に今回の展示会場では、企業の皆様のセキュリティに対する関心が非常に高いという明らかな傾向がみられました。情報漏えいが企業の業績や存続にも大きな影響を及ぼすことや、内部統制強化が必然となっていることなどが背景にあるせいか、従来であれば、情報システム部門の方が中心に熱心にご覧になることが多かったのですが、今回は情報システム部門の方のみならず、総務部門や管理部門、経営企画や経理部門の方などのご来場も多く、企業全体の経営レベルの課題としてセキュリティ対策に本腰を入れて取り組む姿勢が見て取れました。

セキュリティゾーンのブースでは、ご来場されるこうした大勢の方々にも理解を深めていただくため、「セキュリティゾーン見学ツアー」を開催。係員が参加者にセキュリティ対策のアウトラインを順に説明するスタイルをとり、非常に好評を博しました。約30分に1回、3日間で合計33回開催したツアーには1,000名を超える方々にご参加いただきました(**写真1**)。

写真1　セキュリティゾーン見学ツアー

また、情報システム部門の方や個別の製品やシステムにご興味を持った方は、それぞれのブースで熱心に係員の説明をお聞きになっていました。

NECの提唱する新コンセプト「協調型セキュリティ」

NECは、新たに「協調型セキュリティ」というコンセプトを打ち出しました。今回の展示においても、このコンセプトをご理解いただくことを最大のテーマ軸とし、関連する個別の製品・システム・サービスを展示しました。

そもそもセキュリティ対策とは、単に安全を保証するだけでなく、業務を遂行する際、安心して仕事に没頭で

きる環境をつくることが目的です。

ご承知のように、現在では外部からの攻撃ばかりでなく、内部の人間が問題を引き起こす可能性への対処も必要です。ところが、コンピュータ技術やネットワーク技術の進歩に合わせて、こうした課題解決のためのセキュリティ対策も同様に進歩してきたかといえば、必ずしもそうではありません。かつてのセキュリティ対策では、コンピュータとネットワーク、それぞれ別に対策を講ずれば事足りていましたが、コンピュータとネットワークの融合する現在にあっては、今までの対策だけでは十分とはいえません。

ほとんどの企業では、こうした状況を理解し、何らかの効果的なセキュリティ対策を行わなければならないということを認識しています。また、個別の課題対策のための製品もたくさんあり、多くの企業では適宜個別の対策を行ってきました。しかし、あまりにも情報システムを取り巻く環境が複雑になり、一貫したセキュリティ対策の定義の下に一定レベルのセキュリティを保証することが難しくなっています。

NECは、こうした状況を踏まえ、本来、企業が求めているのは個別対策の単なる集合ではなく、個々の対策が連携し想定する一定レベル以上のセキュリティを実現することにあると認識し、「協調型セキュリティ」という新たなコンセプトを打ち出しました。

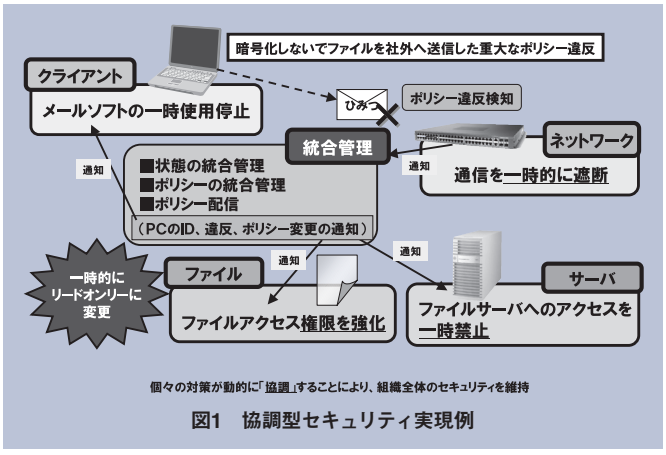

図1　協調型セキュリティ実現例

具体的に「協調セキュリティ」とは、ウイルス対策やサーバセキュリティなど、個々の対策が動的に協調することによって、組織全体のセキュリティを維持・向上させる仕組みです。たとえば、クライアントPCがセキュリティポリシー違反を起こした場合、外部ネットワーク接続をただちに遮断し、ファイルサーバへのアクセスを一時禁止したり、メールソフトを使用停止にしたりするといった、各ソリューションが連携した対策を実現します(**図1**)。

「協調型セキュリティ」を実現する代表的な製品

「協調型セキュリティ」を具現化する製品として、注目を集めたのが情報漏えい対策ソフトウェア「InfoCage」です。「InfoCage」は、セキュリティ上の問題に対し、「認証」「アクセス制御」「ログ」を共通化することによって、オフィスの紙文書から電子データ、ネットワークなど、あらゆるセキュリティ対策の動的な連携を実現します。

今回の展示では、シリーズ製品第一弾として発表されているクライアントセキュリティ製品「InfoCage /PCセキュリティ」と、サイバーアタック対策ソフトウェア「CapsSuite/PC検疫システム」をご覧いただきました。

「InfoCage」は、今後もクライアントPC、ファイル、サーバ、ネットワーク、マネジメントと、それぞれの分野ごとに「協調型セキュリティ」を実現するラインナップの強化を図っていきます。

①クライアントセキュリティ製品「InfoCage/ PCセキュリティ」(**図2**)

クライアントPCにおける情報漏えい対策をオールインワンで統合的に実現するクライアントセキュリティソフトです。認証・暗号・制御・消去機能を提供し、不正アプリケーションの機能抑止や、プリンタ/USBメモリの制御、データ暗号化、厳密なログ管理などを実現します。ポリシーの設定からその徹底、証跡管理まで監査に耐えうる一連の流れをPC単独で実現し、組織的なセキュリティ対策を徹底できる高度な機能を持つ製品です。

新コンセプトに基づくグループの総力を挙げた取り組みをご覧いただいたセキュリティゾーン

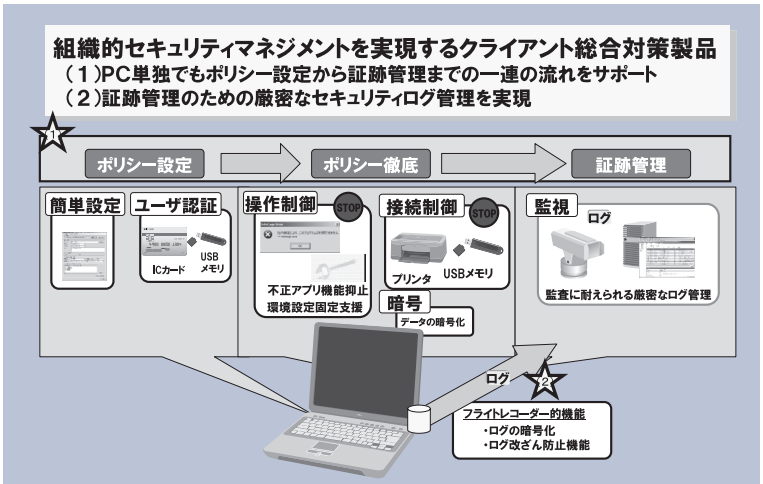

図2　PCセキュリティVer1.0

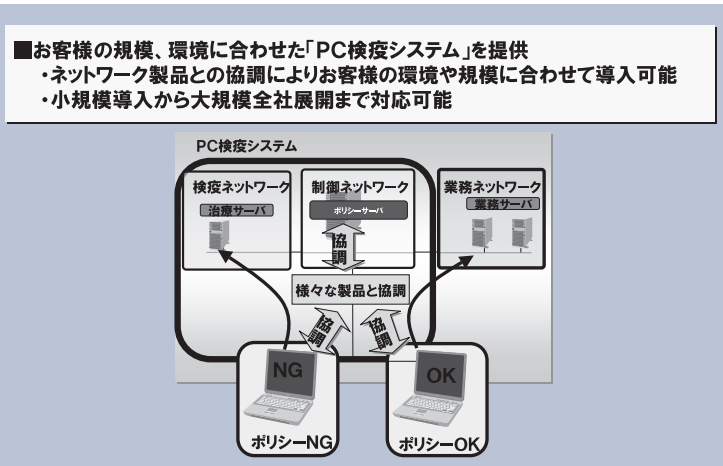

図3　CapsSuite/PC検疫システムの構成

②サイバータック対策ソフトウェア「CapsSuite/PC検疫システム」(図3)

NECはイントラネット内の接続機器のセキュリティ状況を定量的に把握、数値化し、「数えるマネジメント」を実現するCapsSuiteの中で、業界でもいち早く“検疫”という考え方を採用しています。具体的には、セキュリティポリシーを満たしていないPCは業務ネットワークに接続させず、適切なパッチや最新の定義ファイルを適用後接続させることもできます。また、クライアントPCにエージェントをインストールする必要がなく、簡単かつ低コストで導入でき、小規模から大規模まで段階的な導入が可能です。

NECグループの提供する豊富なセキュリティ対策製品群

会場ではNECグループの製品を含め、PC、サーバ、ファイル、ネットワーク、フィジカル、コンサルティングなど、多彩な製品群をご覧いただきました。主な出展は以下のとおりです。

①PC・サーバ、ネットワーク用セキュリティ対策製品・システム

・可視化によるセキュリティマネジメント「CapsSuite」

・不正接続防止アプライアンス製品「InterSec/NQ30b、WebSAM SecureVisor」

・スパムメール対策構築サービス

・内部統制実現のための統合ID管理ソリューション

・異常取引/不正口座モニタリングソリューション「アカウントプロテクター」

②フィジカルセキュリティ製品・システム

・UNIVERGE社員証ICカードソリューション

・指紋認証システム 指紋認証ユニット「SecureFinger」

・複合認証入退出管理システム「BiodePass」

・フィジカルセキュリティソリューション「統合監視システム」「高感度EMCCDカメラ」

・UNIVERGEフィジカルセキュリティソリューション

③診断・コンサル・運用サービス

・セキュリティ診断・監査ソリューション

・Webアプリケーションセキュリティ・マネージメントサービス「WAF運用サービス・WAF診断サービス」

④参考出展・研究開発

また、参考あるいは、研究中で製品化の近い製品展示では、次の出展がありました。

・高度映像監視ソリューション「Distrust Action Monitoring System」

・情報漏えいリスク管理システム「Information Leakage Risk Management System」

これらの製品群のうち、特に大勢のご来場者がご覧になったり、実演に関心をお持ちになったりしたのが、バイオメトリクス認証によるフラッパーゲートの実演(**写真2**)、認証基盤を提供する各種ID管理製品、PCを要塞化するPCセキュリティ、ユーザの状況の見える化を実現する製品などでした。また、ITとネットワークの両方に強いNECならではのコンサルティングやセキュリティ診断に対するニーズも、非常に多いという印象でした。

写真2　フラッパーゲート

部分最適から全体最適へ、そしてパートナーとの連携も強化

NECは「協調型セキュリティ」のコンセプトを打ち出す以前から、ソリューション連携がセキュリティレベルを上げると考え、たとえば「フィジカルセキュリティ+情報漏えい対策」、「フィジカルセキュリティ+ネットワークセキュリティ」、「ネットワークセキュリティ+サイバーアタック対策」など、個々のソリューションを連携させて“死角”をなくすことをお勧めしています。

また、より強力な「協調型セキュリティ」実現に向け、NECグループの製品だけでなく、パートナー企業の製品とも連携を進めていきます。トレンドマイクロのアンチウイルスやクリアスウィフトのメールセキュリティ製品、コクヨS&Tの文書管理システムなどとの連携がその代表例であり、今後もアライアンスの強化を図っていきます。

セキュリティソリューションの提供の仕方も、製品レベ

新コンセプトに基づくグループの総力を挙げた取り組みをご覧いただいたセキュリティゾーン

ルですぐに導入できるものから、ヒヤリングや診断を行い、システムとして構築するものまで、お客様の現状に即した提供形態をとれることも、今回の展示や説明を通じてご理解いただけたものと思います。

（NEC技報編集事務局）

取材協力

則房 雅也
システムソフトウェア事業本部
第一システムソフトウェア事業部
エグゼクティブエキスパート

森野 淳一
システムソフトウェア事業本部
第一システムソフトウェア事業部

辻 貴孝
システムソフトウェア事業本部
第一システムソフトウェア事業部